

浜松市におけるアルコール・薬物等依存問題対策事業について

浜松市精神保健福祉センター

○鈴木多美 益井多美子 幸崎美帆 二宮貴至

(要旨)

浜松市精神保健福祉センターは、平成19年4月に開設したが、平成20年度からアルコール・薬物依存症の家族教室を開催し、平成21年度からアルコール・薬物相談を実施している。また、新しい取り組みとして、平成23年度にアルコール・薬物依存症再発予防プログラムの試行を行っている。今回はそれらの取り組みの実施状況や今後の課題について報告する。

(目的)

アルコール・薬物等依存問題は、依存症という精神疾患であり、適切なケアが必要な状態であるが、本人も周囲の家族等も、現実には「本人の意志の問題」であり、「甘え」「意志の弱さ」などが重要な要素であると思うことが多い。そのため、良かれと思って行動することが、望まない結果を生むことも多くなってしまふ。浜松市では、依存問題対策の普及啓発も含め、本人及び家族等が依存問題に適切な対応ができることを目的として取り組みを行っている。

(浜松市の依存問題対策事業の概要及び結果)

1. 家族教室の開催

平成20年度から、アルコール・薬物依存症の家族教室を3回1コースで年1回開催。

内 容 (平成23年度)

	内容	講師
第1回	アルコール依存症・薬物依存症の理解について	医師
第2回	家族の役割について ～家族の体験談～	精神保健福祉センター職員 家族会メンバー
第3回	本人の気持ち・回復について ～本人の体験談～	精神保健福祉センター職員 自助グループメンバー

参加者

	H20	H21	H22	H23
延べ人数(人)	30	35	27	53

2. 相談事業

平成21年4月 アルコール問題、薬物問題の相談窓口を開設。

◎相談実績の変遷

(再掲：本人相談数)

(件)	平成21年度		平成22年度		平成23年度	
	実件数	延件数	実件数	延件数	実件数	延件数
アルコール	17 (0)	17 (0)	12 (0)	13 (0)	19 (6)	49 (19)
薬物	3 (2)	3 (2)	7 (4)	36 (26)	17 (9)	80 (44)
ギャンブル	2 (2)	4 (3)	1 (1)	1 (1)	8 (7)	24 (14)
その他	0	0	1 (1)	1 (1)	2 (2)	21 (21)
計	24 (4)	24 (5)	21 (6)	51 (28)	46 (24)	174 (98)

3. 再発防止プログラムの試行 HAMARPP

(Hamamatsu city Alcohol & Meth Addiction Relapse Prevention Program)

プログラム導入の経緯

平成22年度から本人の継続相談者が増えたことや、ドムクス及びダルク等の薬物問題関係者団体との連携が進む中で本人プログラムの必要性が高まり、平成22年度後半に多摩総合精神保健福祉センターで実施されている再発予防プログラム（TAMARPP）の実施について検討が始まった。プログラムの見学、調整をする中で、プログラム開発者の協力が得られることにもなり、平成23年度に入って、プログラム開発者と開始日の設定を行うとともに、浜松市版プログラムの作成に着手した。浜松市版作成に当たっては、TAMARPPに加え、ダルクが使用しているプログラムから、マリファナ、依存症の理解、アルコールについての部分を付加して作成した。

プログラム試行方法

- (1)開催頻度：毎週1回（祝祭日は休止）
- (2)開催時間：15：30～16：40（70分間）
- (3)対象者：依存問題で継続相談中の本人
- (4)会場：浜松市精神保健福祉センター
- (5)参加費：無料
- (6)周知方法：対象者に直接打診
- (7)スタッフ：精神保健福祉センター職員1～2名（精神保健福祉士、保健師等）
サブリーダーとして、ダルクスタッフの参加
- (8)進行方法：参加者は、入室したら自分の個人記録とプログラムを用意する。



プログラム会場セッティング

- ①チェックイン 1週間振り返り自分の個人記録に依存物質への依存状況を記録し、それを元に1週間どう過ごしたか、考えたこと、危険だった出来事などについて話す。
- ②プログラム HAMARPPを利用して、読み合わせ、課題遂行を行い、自己の問題についてセッションする。
- ③チェックアウト 今日の課題についての振り返りを行い、時間があれば来週に向けて考えることなどを話してみる。

プログラム（HAMARPP）内容

- | | |
|----------------------------------|--------------------------------------|
| 第1回 アルコールや薬物が脳に与える影響
引き金と渴望 | 第8回 再使用を防ぐために—その1—
再使用を防ぐために—その2— |
| 第2回 思考停止法
外的な引き金と内的な引き金 | 第9回 再使用を防ぐために—その3— |
| 第3回 回復の地図
回復初期によく起きる問題とその解決方法 | 第10回 強くなるより賢くなる |
| 第4回 自助グループと12ステップ | |
| 第5回 思考・感情・行動
マリファナについて考える | |
| 第6回 アルコールについて考える | |
| 第7回 依存症の特徴 | |



プログラムと個人記録

プログラム試行状況

平成23年7月から平成23年9月までの第1クールでは、プログラム開発者に進行役をお願いし、その間に、浜松市精神保健福祉センターのスタッフ及びサブリーダーとなるダルクスタッフが各回の進行について学んだ。その際の参加者は、2名～5名であった。

第2クールからは、センターのスタッフとダルクのサブリーダーが進行を行う形で進めているところであるが、参加者は、第1クールの参加者に見学者が若干名加わる状況である。

4. その他普及啓発事業等

H19 精神障がいを理解する研修会（アルコール依存症） 2回 【参加者 79名】

H20 窓口職員向け研修会（疾患の理解、家族体験談、対応方法） 【参加者 26名】

H21 精神障がいを理解する研修会（薬物依存症） 【参加者 42名】

講師：日本ダルク代表 近藤恒夫氏

H22 精神障がいを理解する研修会（アルコール依存症） 【参加者 60名】

講師：服部病院院長 山名純一医師

いのちをつなぐ講演会（講師：水谷修氏 ダルクメンバー） 【参加者 1,000名】

（今後の課題）

1. 面接とプログラムへの繋ぎと参加継続について

精神保健福祉センターで行っている面接相談の開始当初は、家族から1回限りの相談が多かったが、平成22年度、平成23年度と継続相談が増えるとともに、本人相談が増えている（平成23年度は、実件数、延べ件数ともにほぼ同数）。これまで家族相談に関しては、原則断酒会、アラノン、ドムクスなどを紹介し、引き継ぎ形を取っていた。しかし、本人については全てをダルクに繋ぐわけにもいかず、なかなか繋ぎ先がなかった。そのことが、センターでのプログラム試行につながったが、継続相談をしても、1週間に1回のプログラムに参加できる相談者は実際には少ない。今後、本人の生活のバランスも考えながら、面接からプログラムへと効果的に繋ぎ、さらに双方を継続させていく方法を考える必要がある。

2. プログラム内容とプログラムの進行についての検討

現在試行中のプログラムは、多摩総合精神保健福祉センターのTAMARPPをベースにダルクが使用しているプログラムのうち必要と考えられるものを加えて作成している。もともとプログラムが薬物依存症のためであったこともあり、アルコール依存症の方へのフォロー的な要素が薄い部分がある。試行の後、改めて精査し、偏りを是正したプログラムを検討したい。また、現在サブリーダーは、このプログラムに馴染みのあるダルクスタッフにお願いしているが、断酒会やAAなどにもお願いしていくことも検討していきたい。

3. 関係機関との連携

依存症問題に適切に対応するためには、当事者グループ・家族会等との連携、医療機関との連携、取り締まり機関との連携も必要となってくる。現在、浜松市の事業の中で、家族教室やプログラムへの参加を家族会・当事者グループにってもらう他、家族会・当事者グループの事業、勉強会へセンター職員が参加するなども行っている。また、保護観察所等からの依存問題（アルコール、盗癖等）に関する問い合わせが来たり、医療機関から問い合わせがあったりという状況になっている。今後は、これらが連携・協力してそれぞれができる分野で依存問題に取り組めるように仕組み作りを考える必要がある。